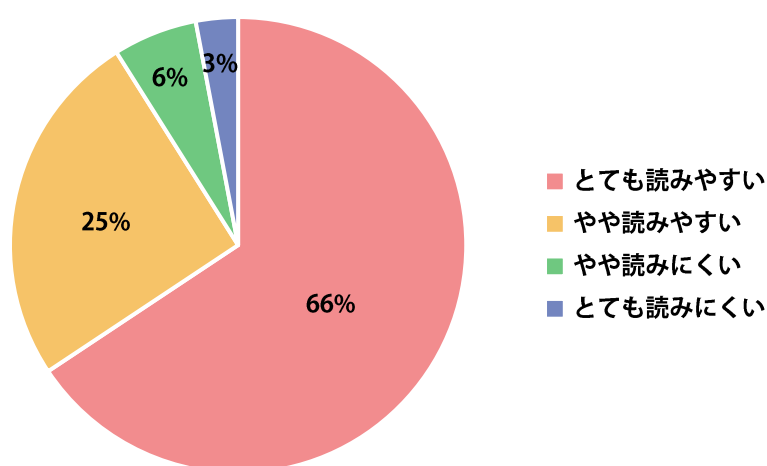


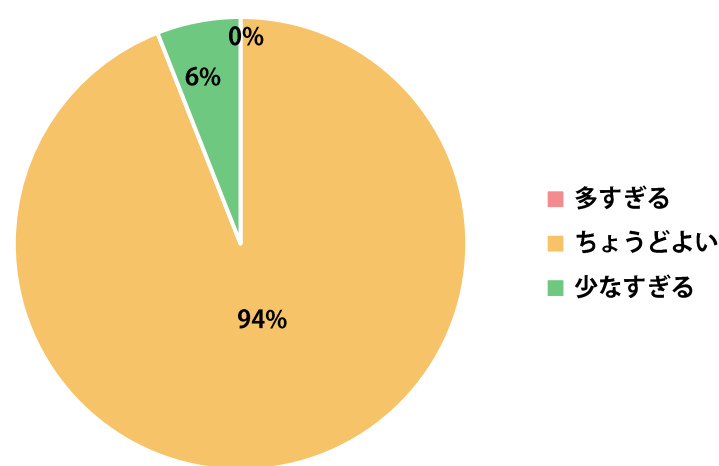
2022年3月に行いました読者アンケートに多数のご参加をいただきまして、ありがとうございました。アンケートの結果をご紹介します。

Primaria ONLINE 編集部

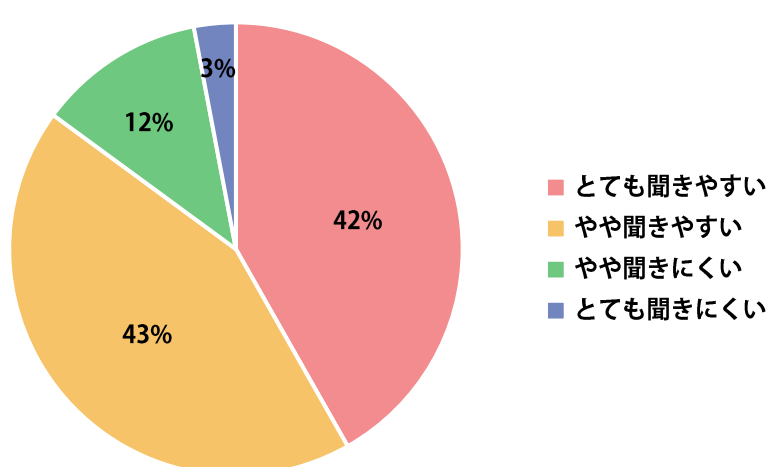
■オンライン・マガジンは読みやすいですか？（ひとつを選択）



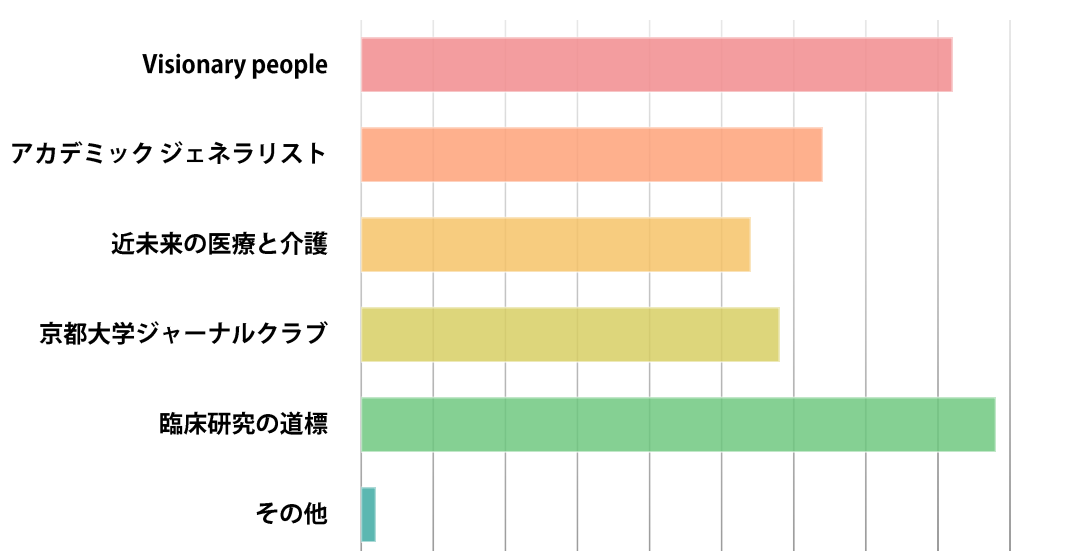
■各記事の量は適切ですか？（ひとつを選択）



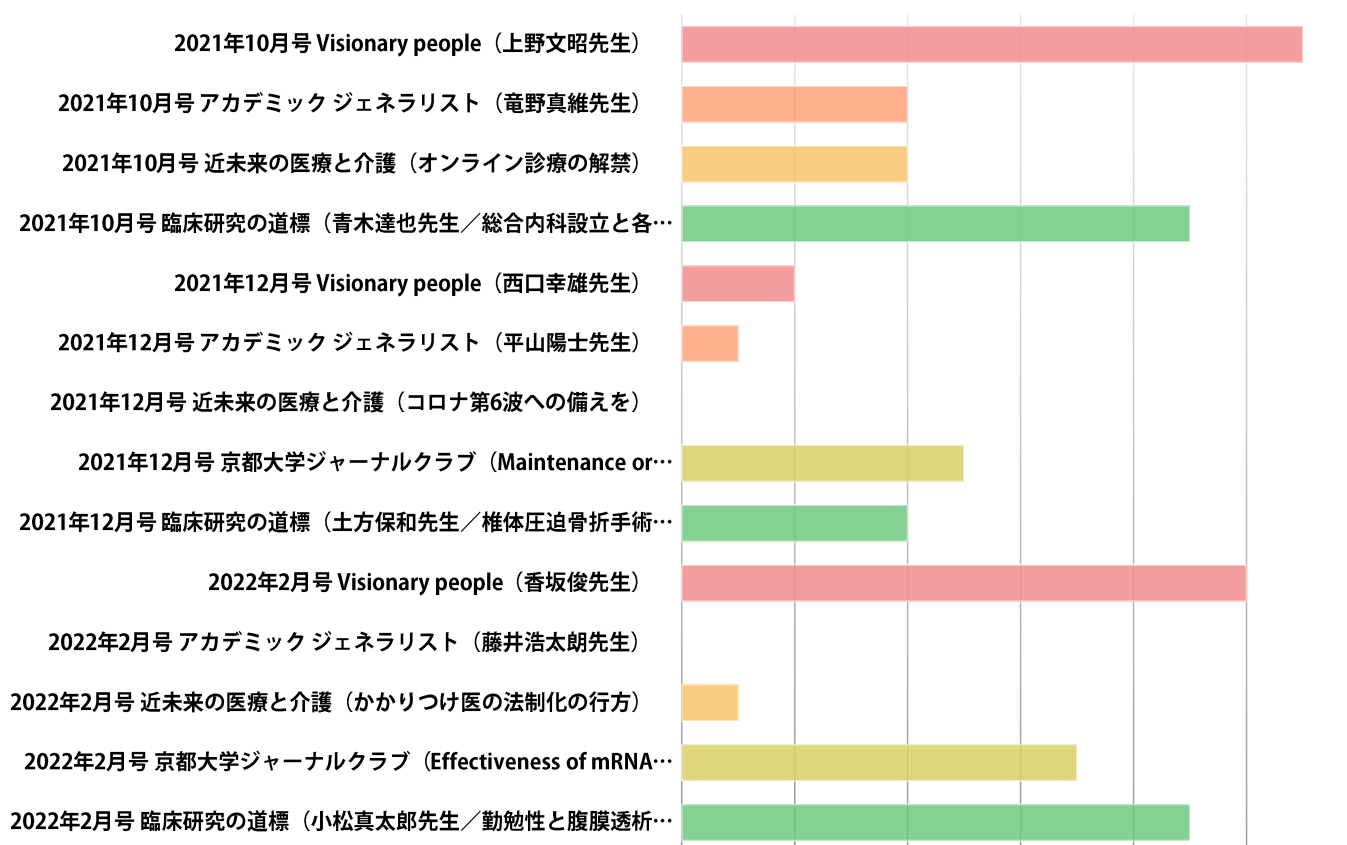
■音で聴く記事は聞きやすいですか？（ひとつを選択）



■好きな連載はどれですか？（あてはまるすべてを選択）*複数回答



■これまで最も良かったと思う記事の掲載号・記事は？（ひとつを選択）



■これまで最も良かったと思う記事の理由は？（自由記載）＊抜粋

2021年10月号 Visionary people（上野文昭先生）	価値を創り出す人はどんな人物なのか、その背景の一端を知ることができるので、とても興味深いと思います。その人物がなぜ特別なのか参考になります。
	上野先生のインタビューは非常にタイムリーな内容で、現状に様々な課題があることがよく分かった。
	上野先生のお話は日本の医療並びに専門医制度の正鵠を射ており共感するとともに、AI時代の医師の在り方に関しては得心が行くものであった。
	日米の研修の違い、自分のファミリーのためか、患者のことを第一にするか、なるほどよく理解できました。
	ジェネラリストの重要性や今後の医療の方向性についてのお話が、ジェネラリストを目指している身として大変励まされる思いでした。
	まるで、現場でご本人のすぐそばでお話をお伺いさせて頂いているようで、活字で読むよりも、ニュアンスやお人柄など、伝わってくる情報量が多い分、学べる点が多いため。
2021年10月号 アカデミック ジェネラリスト（竜野真維先生）	総合医の臨床研究の参考になります。
	竜野先生の記事を興味深く拝見いたしました。知りたい、かつ、得難い情報でありました。
	臨床と研究の接点で生き生き活躍する先生の様子が伝わってきて刺激的だった。
	コミュニティアケアを扱っていたから。
	自身への刺激になりました。
2021年10月号 近未来の医療と介護（オンライン診療の解禁）	臨床的だったから。
2021年10月号 臨床研究の道標（青木達也先生／総合内科設立と各専門科における血液培養採取数増加の関連：Interrupted Time Series Analysis による検討）	一番インパクトがあった
	地域で臨床研究をするモチベーションをいつも頂いています！
	臨床研究の基本的な考え方。
	実際に役立ちそうであったため。
	自分のニーズに合っているからです。
	同年代の医師が、どのような壁を乗り越えて実際に臨床研究を行っているかがわかり勉強になりました。
	関心あるテーマを難しくなく、身近な言葉で表現されているとおもったから。
	総合内科医にとって親和性のあるトピックであった。
2021年12月号 Visionary people（西口幸雄先生）	いろいろな先生の経験がわかる。
	将来的な総合診療の体制について共感する点や見習うべき点があったため。
2021年12月号 アカデミック ジェネラリスト（平山陽士先生）	内容が興味のあるものだったから。
2021年12月号 京都大学ジャーナルクラブ（Maintenance or Discontinuation of Antidepressants in Primary Care）	研究初心者としては論文の読み方について、何をどういう風に見たらいいのか？と悩んでいたのが、京大ジャーナルクラブの記事がとても勉強になりました。
	質の高いジャーナルクラブで、私の教室で行っているものとは異っていたため。
	知らない事を知れたから。
	勉強になったからです。
2021年12月号 臨床研究の道標（土方保和先生／椎体圧迫骨折手術後の隣接骨折発生予測モデル -AVAスコア- の開発と内的妥当性検証）	臨床研究の道標では、働きながら普通の業務の中からRQを立てて、実践していくところが参考になります。
	臨床研究を形にしていく中での苦労、葛藤が伝わってきた。
2022年2月号 Visionary people（香坂俊先生）	香坂先生が臨床研究を行うようになったきっかけ、これから目指すものが分かって参考になりました。
	インタビュー内容がとても面白く、インスパイアされました。
	教員側からすれば、学生に選択肢を与えるのではなく、経験させる、ある程度の強制が必要なのだと考えたこと。
	香坂先生の研究とのかかわりを垣間見ることができたため。
	紙ベースだと編集される場所も、量や臨場感など音声ならではの良さがありました。
2022年2月号 京都大学ジャーナルクラブ（Effectiveness of mRNA BNT162b2 COVID-19 vaccine up to 6 months in a large integrated health system in the USA: a retrospective cohort study.）	大変内容が素晴らしく、勉強になった。
	ジャーナルクラブで取り上げた論文のテーマがタイムリーで、よいクリティークがどういものかが、大変よく分かったから。
	質の高い内容であるので、定期的に拝見できるのはありがたいです。
	論文を読むときの視点について学びが多いから。
	研究についての具体的内容が学習できるため。
2022年2月号 臨床研究の道標（小松真太郎先生／勤勉性と腹膜透析関連腹膜炎との関連）	臨床研究のモチベーションにつながりました。
	臨床研究・論文投稿の苦労が伝わってきた。楽な道はないと痛感できた。
	つまづいた論文をほったらかしにするという正直な経過が含まれているところ。
	自分も臨床研究しなくてはと刺激になりました。
	臨床研究ができるまでの道のりが実例で分かりやすいからです。自分にもできるかもしれない！やってみたい！と勇気づけられています。
	実際に論文になったテーマについて、その着想の時期・経緯、どのようにブラッシュアップされ論文化されたか、ということ詳しく解説されていたため。

■今後、取り上げてほしいトピックス（自由記載）＊抜粋

人物像。
臓器別専門医から総合診療に入り直した先生方の経緯と、結果としての現在に対する評価。
医師がお勧めできる代替療法（こむら返りにお灸など）。
コロナ禍での海外留学の現状について現在海外に留学されている先生や、もしコロナも一つのきっかけで帰国された先生がいらっしゃれば、記事を読んでみたいです。
文献の批判的吟味・解釈間違いのポイントについて実例からなど。
プライマリケアのリサーチ。
医療政策と働き方改革。
医師以外の医療職と医師とのつながり。
混合研究法など様々なデザインの研究を扱ってほしいです。
教科書であり見ないような研究デザインについてや解析手法の選び方について、臨床研究相談コーナーなど。
小児に関係する事もトピックスとして取り上げてくださるとありがたいです。
臨床試験のレクチャー、いろんな分野で活動している経歴紹介。
医療安全。
最新の疫学研究手法の紹介があるとより閲覧者が増える気がいたします。

白河総合診療アカデミーの論文について。
国内の優れた臨床研究の紹介。
Tele-medicine、インフォメーションテクノロジーと日本の Epidemiology の発展。
プロの方の経験をもっと知りたいと思っています。小職個人の希望で、一般的ではないかと思いますが。
プライマリケアに役立つ特集。
世界のプライマリ・ケア関連の論文の傾向（トピック）について。
因果推論の特集として、操作変数法や不連続回帰デザインの研究・論文作成の実際（Rのコードや論文に記載すべき事項）を御教示いただきたいです。
公衆衛生大学院の紹介・その他臨床研究センターの紹介。
臨床研究四次元ポケットの続き。

■Primaria ONLINE へのご要望など何でもご意見をお寄せください（自由記載）*抜粋

写真がとても良いと思います。記事も見やすいです。
音声版と同じ長さのものを活字で見たい。
紙の方が読みやすい場合があります。各号の必要なページを指定印刷できれば嬉しいです。
過去の紙媒体のバックナンバーをONLINEでペーパーレスで読むことができれば大変ありがたく存じます。
勉強になっております。いつもありがとうございます。
対談を音声で聞くのは画期的ですね。字も大きいし、読みやすいです。
楽しみにしております！
記事の量が多すぎず少なすぎず読みやすいと思います。
オープンアクセスにしてはいかがでしょうか？ID/PWが必要なのが、やや時間のロスと感じます
通常レベルの臨床研究の話題と、それらを少し越えたややレベルの高い研究の話題を織り交ぜて欲しいです。それによってinspireされると思います。
サイトのログインと同じID、パスワードにしてほしい。わかりづらい。
定期発行は大変かと思いますが、楽しみにしているので継続をよろしくお願いします。
論文作成の上で「メンターとのやり取り」というのがどういうもので、それにより論文のどこがどう良くなっていくのか具体的に見てみたいです。
これからも研究者の知的好奇心と向学心を刺激する雑誌を期待しています。

Primaria ONLINE 読者アンケートにご協力ください

Primaria ONLINE は、みなさまにとりまして、もっと魅力的で価値の高い情報や交流の場を提供できるように、みなさまのご意見やご要望を積極的に取り入れ、今後の改善に役立てていきたいと存じます。

みなさまのご意見を、ぜひお聞かせください。アンケートは、数分でご回答いただける簡単なものです。

*ご回答者の中から抽選で、編集長 福原俊一 著「あなたも世界の臨床研究者に 京都大学医学研究科 MCR プログラム開講 10 周年記念誌」を贈呈申し上げます。

Primaria ONLINE 編集部

アンケートに回答する ▶